



おおがたかいそうるい 大型海藻類

4-5 おおがたかいそうるい 大型海藻類 (ワカメなど)

ワカメやノリ、テングサ、コンブなどの海藻は、わたしたちの身近な食材として古くから利用されてきました。みそ汁やサラダのワカメはおなじみですね。また、みなさんが大好きなゼリー（カンテン）は、テングサからつくられます。

また、浅い海が川崎の前面に広がっていた頃には、ノリの養殖が盛んに行われていました。今からおよそ100年前の明治42年には、大師河原のノリの生産量が神奈川県で最大であったという記録が残っています。

す。現在では大規模な埋め立てのため、ノリの養殖はみられなくなりました。

海藻は、陸の草木と同じように、二酸化炭素を吸収して光合成を行い、私たち動物が生きていくために必要な酸素を作り出してくれます。海藻がたくさん生えている「藻場」は、卵から生まれたばかりの生きものたちの赤ちゃんが、えさを食べたり敵から身を守る場として、とても大切です（詳しくはコラムを参照）。



アナアオサ



緑藻の仲間。日本各地の沿岸に分布する。高さ20~30cm。体は膜状で、横にも広がって大きくなる。大きくなるにつれて、大小の穴がたくさんあく。生育は年中みられるが、最も繁茂する時期は春~初夏。



ススカケベニ



紅藻の仲間。本州の太平洋沿岸や瀬戸内海に分布する。くすんだ紅色をしており、高さ10~30cmほどに生長する。石や貝殻、他の海藻の上などに生育する。



ベニスナゴ



紅藻の仲間。日本各地の沿岸に分布する。高さは10~25cmほど。体はところどころにたての裂け目ができやすく、へりにはやや波をうったようなひだができる。



ワカメ



褐藻の仲間。北海道南部、本州、四国、九州に分布。体には中肋があり、その左右に幅の広い葉状部をもつ。高さは50~100cm、幅は30~50cmほどに生長する。初夏に成熟する。

名前の矢印はそれぞれ



~みつかった場所~
 ●【運河エリア】 ●【多摩川河口エリア】
 注) 3ページの地図にあるエリアのどこでみつかったかをあらわしています。



← **ムカデノリ属** ● ○

紅藻の仲間。生長するとムカデのように
枝をいくつも分岐させる。ムカデノリ属は個
体によって色やかたちの変化が激しく、種
を特定することが難しい。



← **ハネモ属** ● ○

緑藻の仲間。ハネモの仲間は外見上、
根、茎、葉の区別がある。しかし、管状の
体は細胞を仕切るはっきりした膜をもたな
いため、細長い細胞からできていることにな
る。このようなつくりの体を「嚢状体」と
いう。



← **フタツガサネ属** ● ○

紅藻の仲間。体は糸状で、這うように生
長する小型の海藻。イガイや他の海藻の上
に着生する。



← **イトグサ属** ● ○

紅藻の仲間。糸状をなし、体は放射状に
広がり、羽状に分岐する。しなやかに長くの
びる。

名前の矢印はそれぞれ



～みつかった場所～
● 【運河エリア】 ● 【多摩川河口エリア】
注) 3 ページの地図にあるエリアのどこでみつかったかをあらわしています。

おおがたかいそうるいちょう さ 大型海藻類 調査のようす

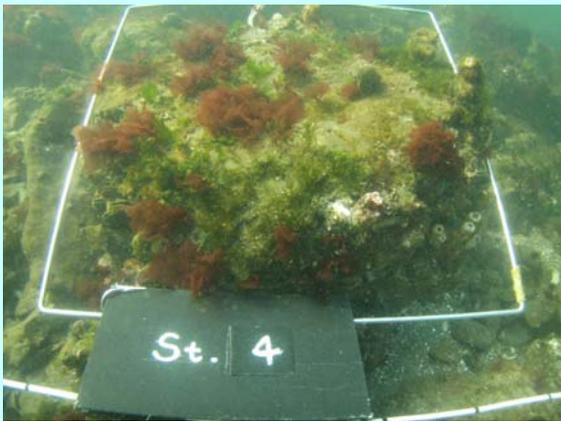
海藻類の調査では、まずどのように海藻が分布しているのかを大まかに確認するために、約50m×50mの範囲をダイバーが観察して記録します(目視観察調査)。次に、どんな種類の海藻が生えているのかを細かく調べるために、小

さな四角い枠の中に生えている海藻をけずり、実験室まで持ち帰ります(定量採集調査)。このほか、海底のようすをビデオ撮影したり、海藻の写真を撮ったりもします。



【目視観察調査】

ロープで観察範囲を決め、その範囲に生えている海藻をダイバーが記録していきます。生えている海藻を目で見て、すぐにどんな種類かを判別できる技術が必要です。このほか、ビデオを使って海藻が生えている海底の様子を撮影します。



【定量採集調査】

50cm×50cmの鉄枠の中に生えている海藻を削りとり、実験室に持ち帰って分析します。生えている海藻が少なく、削り取ってしまうと生態系に大きな影響を与えると判断した場合は、定量採集を行いません。

～コラム 5.～

藻場は生きもののゆりかご

かいそうは「海藻」と「海草」という 2 とおりの漢字で書かれます。「海草」は植物学では「うみくさ」と読み、柔らかい砂地に生えるアマモやコアマモ、岩に生えるスガモなどを指します。海藻は海藻とちがって花を咲かせてタネをつけ、海藻にはない根・茎・葉の区別があります。海草は海から陸に上がった植物が、再び海に戻ったなかまなのです。(ミュージアムパーク茨城県自然博物館「そうだ！海だ！海藻だ！-いのちをつなぐ海の森」より引用)

ワカメやコンブ、アラメ、カジメなどの海藻がたくさん生えている場所は「海中林」とよばれ、魚の産卵場や赤ちゃんたちが大きく育つ場所と

なっています。アマモやコアマモなどがたくさん生えている場所は「アマモ場」とよばれ、これも産卵場や幼稚魚の育成場となっています。海中林もアマモ場も、どちらも「藻場」とよばれ、小さな魚たちが大きく育つためにとても大切な場所です。また、巻貝は海藻の葉を食べ、大きな魚は海藻に隠れた小さな魚やエビ・カニを食べるので、藻場には多くの生きものが集まります。

このように、大きな生きものから小さな生きものまでの成長を支えている藻場は、まさに「海の生きもののゆりかご」なのです。



アラメなどの大型の海藻からなる藻場は海中林とよばれ、幼稚魚の隠れ場所や、サザエやアワビなど巻貝のエサ場として大切な場所です。海中林は、水が透明で波の荒い岩礁域に発達します。

【藻場の再生に向けた取り組み】

海藻が大きくたくさん育つように、ブロックに植えつけて海の中に入れます。このように東京湾では、沿岸の埋め立てによって失われた藻場を再生するために、様々な取り組みが行われています。



「海草(うみくさ)」であるアマモやコアマモなどからなる藻場はアマモ場とよばれます。アマモの葉の上などにもたくさんの生物がすんでおり、それらをエサとするヒラメやズキなどの稚魚が集まります。アマモ場は、水深が浅く波の穏やかな砂泥の場所に発達します。



※写真は3枚とも横須賀市周辺に分布する藻場で撮影。